

平成 28 年度

修士課程 臨床鍼灸学専攻

授 業 概 要

明治国際医療大学大学院

大学院 臨床鍼灸学専攻 教育課程

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	時間数	内科系臨床鍼灸学	整形外科系臨床鍼灸学	外科系臨床鍼灸学	ウェルネス臨床鍼灸学	備考
					必修	必修	必修	必修	
基盤科目	統合医療学特論Ⅰ	1	2	30	2	2	2	2	
	統合医療学特論Ⅱ	1	2	30	2	2	2	2	
	臨床鍼灸学特論Ⅰ	1	1	15	1	1	1	1	
	臨床鍼灸学特論Ⅱ	1	1	15	1	1	1	1	
	伝統鍼灸学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	臨床鍼灸学演習	1	1	30	1	1	1	1	
	伝統鍼灸学演習	1	1	30	1	1	1	1	
	附属鍼灸センター特別実習	1	4	120	4	4	4	4	
	附属病院特別実習	1	4	120	4	4	4	4	
	臨床鍼灸研究技法	1	2	30	2	2	2	2	
専門科目	内科系臨床鍼灸学特論	1	2	30	2				
	整形外科系臨床鍼灸学特論	1	2	30		2			
	外科系臨床鍼灸学特論	1	2	30			2		
	ウェルネス臨床鍼灸学特論	1	2	30				2	
	内科系臨床鍼灸学演習	2	2	60	2				
	整形外科系臨床鍼灸学演習	2	2	60		2			
	外科系臨床鍼灸学演習	2	2	60			2		
	ウェルネス臨床鍼灸学演習	2	2	60				2	
	附属病院内科系特別実習	2	4	120	4				
	附属病院整形外科系特別実習	2	4	120		4			
	附属病院外科系特別実習	2	4	120			4		
	ウェルネス臨床鍼灸学特別実習	2	4	120				4	
	特別研究	1~2	8	240	8	8	8	8	
合計 (23 科目)		—			35	35	35	35	

授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎ 鶴 浩幸、今西二郎、江川雅人、廣正基、和辻 直、山崎 翼、 福田晋平					
テ ー マ	統合医療の概念、日本および世界における統合医療の現状を理解し、日本における統合医療のあり方及び統合医療における伝統医療の役割について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。 ①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
視 点 (ね ら い)	1. 統合医療の概念について理解すること 2. 西洋医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAM の特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要] オリエンテーション・ガイダンス [到達目標] 統合医療学特論 1 の授業内容や授業の進め方について理解する。					
	[授業概要] 統合医療概論 [到達目標] 1) 統合医療の概念やそのシステム、様々な代替医療の概念などについて理解する。					
	[授業概要] 附属統合医療センター実習・1 [到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。					

	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・2</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・3</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・4</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 循環器疾患と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 循環器疾患に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) 循環器疾患に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・5</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 冷え症と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 冷え症に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) 冷え症に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・6</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 疲労と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 慢性疲労症候群など疲労改善に対する統合医療の概要について理解する。</p>	

	2) 疲労改善における統合医療の長所や注意事項などについて議論する。	
	[授業概要] 附属統合医療センター実習・7 [到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。	
	[授業概要] パーキンソン病と統合医療 [到達目標] 1) パーキンソン病に対する統合医療の概要について理解する。 2) パーキンソン病に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。	
	[授業概要] 附属統合医療センター実習・8 [到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。	
	[授業概要] 発表と討論・7 [到達目標] ・統合医療領域における各治療法（アロマセラピー・ハーブ療法・漢方・ヨガ・サプリメント・カウンセリングや心理療法・禅・瞑想・その他）から1つのテーマを選択し、その治療法の概念や概要、実際の治療方法などについて学生自らが調べ、発表する。各種治療法の概念、長所や短所、注意事項などについての理解を深めるため、議論する。	
	[授業概要] まとめ [到達目標] ・全体の総括を行う。統合医療についての意見交換を行う。	
テキスト（配付資料）	配布資料及び 今西二郎：統合医療, 金芳堂, 2008.	
参 考 文 献	1. 入門漢方医学, 日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編, 日本統合医療学会, 2007. 3. 今西二郎：メディカル・アロマセラピー第2版, 金芳堂, 2010. 4. 今西二郎：医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60点以上を合格とする）。	
その他（アドバイス等）	日本統合医療学会誌を参考とする。	

授 業 科 目 名		統合医療学特論Ⅱ				
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者		渡邊勝之				
テ ー マ	生活者（患者）一人ひとりの自覚である“いのち主人公、からだの責任者”を基盤とした、統合医療を実践していくための問題点および課題を捉え、問題解決していくための具体案およびチーム医療を実践していくための方向性について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療を時間（歴史）的および空間（世界）的に大きく捉え、理想とする統合医療を実践していくための基本的な知識を習得する。また、日本における医療の現状を踏まえ、どのように実践すれば統合医療・チーム医療が実現可能かを考える。					
視 点 （ ね ら い ）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療理論および医療従事者の立場を明確にし、理解すること。 2. 医師・看護師・鍼灸師らの共通基盤について理解すること。 3. チーム医療を実践していくための問題点と課題を理解すること。 4. 生活者（患者）が主人公である医療について考えること。 					
授 業 計 画						
日程	概 要	備考（授業時間外学習の指示等）			テキスト 頁	
	[授業概要] 総論1（序章）	医療原論 序 章			p. 1	
	[到達目標] 医療原論と統合医療の関係を理解する				～4	
	[授業概要] 総論2	医療原論 第 1 章			p. 5	
	[到達目標] 《いのち》および医学・医療を通時的・共時的に捉える				～10	
	[授業概要] PHC・統合医療・始原医学とは	医療原論 第 2 章			p. 11	
	[到達目標] 上記の医学・医療の関係を理解する				～20	
	[授業概要] 医学・医療の歴史（総論）	医療原論 第 4 章			p. 29	
	[到達目標] 大きな医学の歴史的流れを理解する				～36	
	[授業概要] 西洋における医学・医療の歴史1	医療原論 第 5 章			p. 37	
	[到達目標] 医学の起源からルネッサンスを経て、近代までの歴史的変遷を理解する				～47	
	[授業概要] 西洋における医学・医療の歴史	医療原論 第 5 章			p. 48	
	[到達目標] ルネッサンス以降の医学から現代までを理解する。				～52	

	[授業概要] インドにおける医学医療の歴史と現状	医療原論 第 6 章	p. 53 ～58
	[到達目標] 世界三大伝統医学の共通点を理解する		
	[授業概要] 中国における医学医療の歴史と現状	医療原論 第 7 章	p. 59 ～67
	[到達目標] 鍼灸医学の起源～現代までを理解する		
	[授業概要] 日本における医学医療の歴史と現状	医療原論 第 8 章	p. 69 ～92
	[到達目標] 歴史と現状を理解し、未来を考える。		
	[授業概要] 《いのち》の哲学1	医療原論 第 9 章	p. 93
	[到達目標] 共通基盤となりうる医学の哲学とは		- 105
	[授業概要] 《いのち》の哲学2	医療原論 第 9 章	p. 105
	[到達目標] 様々な自然観・生命観・健康観・疾病観を理解する。		- 115
	[授業概要] 《いのち》の哲学3	医療原論 第 9 章	p. 115
	[到達目標] 身体観および気と自然治癒力について考える		- 126
	[授業概要] 《いのち》の哲学4	医療原論 第 9 章	p. 126
	[到達目標] 《CORE》Medicineを理解する		- 136
	[授業概要] まとめ	医療原論 第 9 章	p. 137
	[到達目標] 鍼灸医学の統合について考える		- 174
	[授業概要]	医療原論・参考文献 1～5	
	[到達目標] レポート課題1・2について考える		
テキスト（配布資料）	医療原論 —いのち・自然治癒力— 医歯薬出版社, 東京, 2011. ※自主購入とする		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 『統合医療 基礎と臨床』【臨床編】日本統合医療学会編集, 2007. 世界伝統医学大全, WHO 責任編集, 津谷喜一郎訳, 平凡社, 1995. 医学概論, 澤瀉久敬, 誠信書房, 2000. 看護覚え書, フロレンス・ナイチンゲール, 現代社, 2000. ホリスティック医学, 日本ホリスティック医学協会, 東京堂出版. 		
評 価 方 法	レポート提出および発表で、総合的に評価を行う。		
その他（アドバイス等）	日本統合医療学会誌を参考。なお、レポートの書き方については、学習技術研究会/編著『知へのステップ』第3版を参考にしてください。		

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学特論 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 苗村建慈、糸井 恵、糸井啓純、樋口敏宏、邵 仁哲、石崎直人、福田文彦					
テ ー マ	1)医療機関における鍼灸臨床の意義と役割 2)現代医学の最新の医学情報					
授 業 の 概 要	<p>医療機関(病院、診療所など)における鍼灸臨床の意義と役割、鍼灸師の立場、チーム医療、コメディカルスタッフとの提携及び保険適応疾患の同意などについて学習する。また、現代医学におけるトピックスを取りあげ、最新の医学情報を紹介する。このことを通して、幅広い最新の知識を学習する。</p> <p>(苗村建慈/1 回) 内科領域のトピックスを取り上げ、内科の最新情報について学習する。</p> <p>(川人浩之/1 回) 内科領域のトピックスを取り上げ、内科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井啓純/1 回) 外科領域のトピックスを取り上げ、外科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井 恵/1 回) 整形外科領域のトピックスを取り上げ、整形外科の最新情報について学習する。</p> <p>(樋口敏宏/1 回) 脳外科領域(脳研究含む)のトピックスを取り上げ、脳外科の最新情報について学習する。</p> <p>(未定 /1 回) 泌尿器科領域のトピックスを取り上げ、泌尿器科の最新情報について学習する。</p> <p>(福田文彦/1 回) 鍼灸と医療機関との関係性、保険制度における鍼灸、医療従事者との提携について学習する。</p> <p>(石崎直人/1 回) 医療機関における鍼灸の実際と問題点について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	1)医療機関における鍼灸医療の意義と役割について学習する。 2)現代医学における最新の医学情報を学習し、最先端の内容を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考(授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(苗村1)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療			下記の参考文献 1. または、参考文献 2. の気管支喘息、COPD、特発性間質性肺炎の項を読んでおくこと。		
	[到達目標(苗村1)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療を理解する。また、これらの疾患のうち、気管支喘息やCOPDにおいて、安定期や慢性期における鍼灸治療の適応について考察する。					

	<p>[授業概要(川人)]循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する</p> <p>[到達目標(川人)]循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および診断治療指針と予後について理解できる</p>	<p>循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。</p>
	<p>[授業概要(糸井啓1)] 外科領域のトピックスとして、「消化器癌治療の進歩」を取り上げ、胃癌の治療を中心に外科の最新情報について学習する。</p> <p>[到達目標(糸井啓1)] 癌治療に用いる「取扱い規約」、「治療ガイドライン」の在り方を胃癌の治療から学ぶ。この概念を東洋医学の分野に応用することを目指す。</p>	<p>「胃癌取扱い規約」、「胃癌治療ガイドライン(医師用)」、「胃癌治療ガイドラインの解説(一般用)」について、その内容を調べる。旧版のガイドラインは日本胃癌学会HP(http://www.jgca.jp/)より、ダウンロードできる。</p>
	<p>[授業概要(糸井恵1)]関節リウマチの診断と治療に関する最新のトピックスについて説明する。</p> <p>[到達目標(糸井恵1)]関節リウマチに関して理解を深める。</p>	<p>講義内容の概要をプリントする。</p>
	<p>[授業概要(樋口1)]脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患において、最新の知見を含めて解説する</p> <p>[到達目標(樋口1)]脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する</p>	<p>脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。</p>
	<p>[授業概要(福田1)]鍼灸師と医療関係者との連携について、どのような関係が適切かについて、事例を通して理解する。また、保険制度における鍼灸医療の位置づけ、療養費払いについても学習する。</p> <p>[到達目標(福田1)]鍼灸医療と医療機関との適切な関係について理解できる。</p>	
	<p>[授業概要(石崎1)]医療機関における鍼灸臨床の可能性について。</p> <p>[到達目標(石崎1)]医療機関における鍼灸治療の可能性について理解出来る。</p>	
	<p>[授業概要(納谷1)]泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>[到達目標(納谷1)]泌尿器科疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる</p>	<p>講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。</p>
テキスト(配付資料)	講義内容の概要をプリントで配布する。	
参 考 文 献	<p>苗村健治担当</p> <p>1. 新臨床内科学第9版:高久史磨ほか編,医学書院,2009</p> <p>2. 内科学第9版:杉本恒明ほか編,朝倉書店,2007</p>	

	糸井啓純担当 1. 日本胃癌学会編、「胃癌取扱い規約」第14版. 金原出版, 2010. 2. 日本胃癌学会編、「胃癌治療ガイドライン」第3版. 金原出版, 2010.
評価方法	課題に対するレポートにより評価する。
その他（アドバイス等）	課題に対するレポート作成に関連して、講義に出てくる専門用語、概念で分かりにくい点を、講義の間に、その場で解決する。

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 北小路博司、福田文彦、竹田太郎、井上基浩、中島美和、伊藤和憲、 田口玲奈、廣 正基、木村啓作、江川雅人					
テ ー マ	最新の鍼灸臨床研究の成果の理解					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床におけるトピックスを取りあげ、最新の鍼灸臨床情報を紹介する。このことを通して、幅広い最新の知識を学習する。</p> <p>(福田文彦・竹田太郎／1 回) 内科領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。福田文彦は緩和医療における鍼灸臨床の成果と現状について、竹田太郎は循環障害の研究成果と現状について担当する。</p> <p>(井上基浩・中島美和／1 回) 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。</p> <p>(伊藤和憲・田口玲奈／1 回) 外科系領域および疼痛領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。伊藤和憲は慢性疼痛における鍼灸臨床の成果と現状について、田口玲奈は産科・婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について担当する。</p> <p>(廣 正基／1 回) 循環器領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(伊藤和憲／1 回) 消化器領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(木村啓作／1 回) スポーツ傷害における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(北小路博司／1 回) 最新の鍼灸臨床研究の現状と鍼灸臨床の展望について学習する。</p> <p>(江川雅人／1 回) 高齢者の健康障害における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	鍼灸臨床における最新のトピックスおよび鍼灸臨床に関する研究を取り上げ、鍼灸臨床の研究の現状と可能性について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(福田・竹田)] 緩和医療、冷え性に関する最新の知見について解説する。			緩和医療、冷え性に関する最新の知見について予習する。		
	[到達目標(福田・竹田)] 緩和医療、冷え					

	性に関する最新の知見について理解する。	
	[授業概要(井上・中島)] 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。	
	[到達目標(井上・中島)] 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について理解する。	
	[授業概要(伊藤・田口)] 外科系領域および疼痛領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。血管障害、慢性疼痛、産科・婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について講義する。	関連する論文をあらかじめ予習する。 テキストについては授業時に配布する。
	[到達目標(伊藤・田口)] 血管障害、慢性疼痛、産科・婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。	
	[授業概要(廣)] 循環器領域とくに高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について教授する。	
	[到達目標(廣)] 高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について理解することができる。	
	[授業概要(伊藤)] 消化器領域の鍼灸研究、特に基礎研究について教授する。	
	[到達目標(伊藤)] 消化器領域の鍼灸研究の成果について理解する。	
	[授業概要(木村)] スポーツ医学系領域の研究成果および現状について教授する。	
	[到達目標(木村)] スポーツ医学系領域の研究成果および現状について理解することができる。	
	[授業概要(北小路)] 排尿障害の内、過活動膀胱に関する近年の動向および現代医学的診療について学習すると共に鍼灸医学の研究成果をもとに臨床的有効性と限界について教授する。	
	[到達目標(北小路)] 排尿障害におけるか活動膀胱の認識と理解を深めると共に鍼灸臨床の現状を理解する。	

6/2 4限	[授業概要(江川)]高齢者に特徴的な疾患としての認知症、高齢者の抑うつなどの増加など高齢社会における医学的な問題点を提示して、鍼灸医学の在り方について論ずる。その中でパーキンソン病の新しい評価方法について解説し、鍼灸治療による治療効果の評価の可能性について講義する。	
	[到達目標(江川)]高齢社会における医学的な問題について考察し鍼灸医学の在り方について述べる事が出来る。また、パーキンソン病に対する鍼灸治療の効果とその評価方法について理解出来る。	
テキスト(配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献		
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他(アドバイス等)		

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 和辻 直、斉藤宗則					
テ ー マ	日本の伝統鍼灸の診察法、治療法について					
授 業 の 概 要	<p>日本の鍼灸臨床の特徴は、西洋医学と東洋医学を合わせた形で診療することが多い。この科目では、東洋医学の基本を強化し、鍼灸臨床における診察から治療までの過程の理解を深め、実践するための基本技能を強化する。</p> <p>(和辻 直/4 回) 臓腑と経絡の機能と病証、四診の所見と臨床的意義を担当する。</p> <p>(斉藤宗則/3 回) 病因と病機、治則と選穴、補瀉手技を担当する。</p>					
視 点 (ねらい)	日本の伝統鍼灸の診察法、治療法を理解するとともに、その伝統的鍼灸の特色を把握する。また、日本鍼灸と中医鍼灸の同と異について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(和辻1)] 臓腑の機能と病証			臓腑の機能を復習する		
	[到達目標(和辻 1)] 臓腑の機能と病証を理解する					
	[授業概要(和辻2)] 経脈の機能と病証			経脈の流注を復習する		
	[到達目標(和辻 2)] 経脈の機能と病証を理解する					
	[授業概要(和辻3)] 四診の所見と臨床的意義 1			四診法を復習する		
	[到達目標(和辻 3)] 四診の所見と臨床的意義 1 を理解する					

	[授業概要(和辻4)] 四診の所見と臨床的意義 2	四診の所見と臨床的意義を復習する。
	[到達目標(和辻 4)] 四診の所見と臨床的意義 2 を理解する	
	[授業概要(斉藤1)] 病因と病機について	病因について復習する。
	[到達目標(斉藤 1)] 病因と病機を理解できる	
	[授業概要(斉藤2)] 治則と選穴について	主な治則と選穴について整理して、まとめる。
	[到達目標(斉藤 2)] 治則と選穴について理解する	
	[授業概要(斉藤3)] 虚実寒熱と補瀉法	補瀉手技を自ら行い、確認する。
	[到達目標(斉藤 3)] 補瀉手技を説明できる。	
テキスト (配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献		
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 北小路博司、福田文彦、伊藤和憲、廣 正基、鶴 浩幸、竹田太郎、井上基浩、中島美和、田口玲奈、木村啓作、江川雅人、石崎直人					
テ ー マ	主要疾患、主要の病態生理学と評価法について					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床で遭遇する主要疾患、あるいは主要症状をとりあげ、それらの病態生理学について詳細に学習し、病態の理解を深める。また、主要疾患、あるいは主要症状に関連する種々の評価法について学習し、鍼灸治療の効果を客観的に評価する手法を学習する。</p> <p>(福田文彦/1回) うつの病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(井上基浩/2回) 変形性関節症の病態生理と評価法について学習する。 腰・下肢疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(伊藤和憲/2回) 繊維筋痛症の病態生理と評価法について学習する。 機能的胃腸症の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(廣 正基/1回) 高血圧の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(鶴 浩幸/1回) 耳鼻科・眼科疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(竹田太郎/1回) 冷え症の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(中島美和/1回) 頸肩腕疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(田口玲奈/1回) 産・婦人科疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(木村啓作/1回) スポーツ障害の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(北小路博司/2回) 排尿障害の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(江川雅人/1回) アトピー性皮膚炎の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(石崎直人/1回) 肥満と糖尿病の病態生理と評価法について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	主要疾患、主要症状の病態生理学について理解するとともにそれらの疾患や症状に関する有用性の高い評価法について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(北小路1)] ガイダンス					
	[到達目標(北小路1)]					

[授業概要(福田1)]うつ病の病態生理と評価法について解説する。	うつ病に関する病態について予習する。
[到達目標(福田1)]うつ病の病態生理と評価法について解説する。	
[授業概要(伊藤1)]繊維筋痛症の病態生理と評価法について教授する。	関連文献による予習を行うこと。
[到達目標(伊藤1)]繊維筋痛症の病態生理と評価法について教授する。	
[授業概要(伊藤2)]機能性胃腸症の病態生理と評価法について教授する。	
[到達目標(伊藤2)]機能性胃腸症の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について教授する。	
[到達目標(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(鶴1)]耳鼻科・眼科疾患の病態生理と評価法について教授する。	耳鼻科疾患（メニエール病・突発性難聴・顔面神経麻痺など）または眼科疾患（白内障・緑内障など）、またはその随伴症状について関連するテキストや文献による予習を行うこと。
[到達目標(鶴1)]耳鼻科・眼科疾患の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(竹田1)]冷え性の病態生理と評価法について教授する。	
[到達目標(竹田1)]冷え性の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(中島1)]頸肩腕疾患の病態生理と評価法	
[到達目標(中島1)]頸肩腕疾患に対する鍼灸治療を行う上で必要な病態生理と評価法について学ぶ。	
[授業概要(田口1)]月経困難症の病態生理や治療法、さらには鍼灸治療の可能性について講義する。	関連文献による予習を行うこと。 テキストは講義時に配布する。
[到達目標(田口1)]月経困難症の病態生理や治療法（鍼灸を含む）について理解する。	
[授業概要(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について教授する。	
[到達目標(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について教授する。	
[到達目標(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について理解する。	
[授業概要(北小路2)]泌尿器系疾患の病態生理と評価法について教授する。	

	[到達目標(北小路2)]泌尿器系疾患の病態生理と評価法について理解する。	
	[授業概要(木村1)]スポーツ障害の病態生理と評価法について教授する。	
	[到達目標(木村1)]スポーツ障害の病態生理と評価法について理解する。	
	[授業概要(江川1)]アトピー性疾患の病態と症状、評価方法について説明する。	
	[到達目標(江川1)]アトピー性皮膚炎の病態生理、アトピー性皮膚炎に対する鍼灸臨床上で用いる評価方法を理解し、適用出来る。理解出来る。	
	[授業概要(石崎1)]肥満と糖尿病の病態生理と評価法について教授する。	
	[到達目標(石崎1)]肥満と糖尿病の病態生理と評価法について理解する。	
テキスト（配付資料）	講義時に配布する。	
参 考 文 献	1) 高血圧治療ガイドライン 2009, 日本高血圧学会, 2009	
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価する。	
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎和辻 直、斉藤宗則					
テ ー マ	臓腑および経絡の診断・治療					
授 業 の 概 要	<p>日本の伝統鍼灸の診療体系には、主に経絡治療と中医学があり、いずれも四診法を行って、病証を判断する。特に日本の伝統鍼灸の特徴は、切診によって得られる体表所見を重視する点、軽微な刺激を与えて治療する点、経絡経穴を意識して施術する点など挙げられる。これらの特徴を理解し、臓腑病・経絡病・経筋病・外感病の病態を判断する診療体系について理解を深める。同時に臨床に関係した東洋医学の古典文献の基礎知識から症例検討まで検討する。</p> <p>(和辻 直/7回) 外感病の診断と治療法を担当する。 (斉藤宗則/8回) 臓腑病の診断と治療法を担当する。</p>					
視 点 (ねらい)	臓腑・経絡学説にもとづく新しい診療システムについて理解するとともに臓腑・経絡の診断法と治療法について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(和辻1)] 概要と日本の伝統鍼灸診療体系の特徴。			経絡治療、中医鍼灸、現代的病態把握の底流に流れるコアは何かを考える。		
	[到達目標(和辻1)] 4つの診断概念について特徴および要点を理解する。					
	[授業概要(和辻2)] 臓腑・経絡を理解する。			東洋医学の臓象、経絡学説を理解する。		
	[到達目標(和辻2)] 五臓六腑の生理病理、固有症状、経絡の流注と病的状態における病証について整理する。					
	[授業概要(和辻3)] 経筋の特徴について理解する。			経筋の特徴、経筋と筋との関係を理解する。		
	[到達目標(和辻3)] 経筋の走行と病証について理解を深める。					
	[授業概要(和辻4)] 症例カンファレンス1			症例より病証の把握を理解する。		
	[到達目標(和辻4)] 症例を提示させ、その病証を理解する。和辻、斉藤					
	[授業概要(斉藤1)] 臓腑病と診療の進め方			あらかじめ、『東洋医学概論』『鍼灸学基礎編』の臓象、病因、病機を復習しておく。		
	[到達目標(斉藤1)] 臓腑病の概念、診療ポイントが理解できる。					

	[授業概要(斉藤2)]臓腑弁証1	指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。
	[到達目標(斉藤2)] 肝、心、脾の主要証のポイントを把握する。	
	[授業概要(斉藤3)] 臓腑弁証2	指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。
	[到達目標(斉藤3)] 肺、腎の主要証のポイントを把握する。	
	[授業概要(斉藤4)] 症例検討	文献の症例より病証の把握手順やポイントを理解する。
	[到達目標(斉藤4)] 症例に対する基本的な弁証の進め方、その治療法を理解する。	
	[授業概要(斉藤5)] 症例カンファレンス2	自分の経験した症例について、主訴、所見、病因、病機、診断、治療を発表する。
	[到達目標(斉藤5)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻	
	[授業概要(和辻5)] 外感病	六淫の特徴や感冒の弁証を理解ができるよう復習する。
	[到達目標(和辻5)] 六淫・六経弁証の特徴を説明できる。	
	[授業概要(和辻6)] 経絡治療	経絡治療の特徴を理解し、その要点を説明することができる。
	[到達目標(和辻6)] 経絡治療の概要を理解でき、診療や基本の治療配穴ができる。	
	[授業概要(和辻7)] 経絡を応用した診察	変動経絡検索法の基本を理解するために関連図書を読む。
	[到達目標(和辻7)] 経絡を応用した診察(変動経絡検索法)の基本を説明できる。	
	[授業概要(斉藤6)] 臨床に関連した東洋医学古典1	元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。
	[到達目標(斉藤6)]	
	[授業概要(斉藤7)] 臨床に関連した東洋医学古典2	元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。
	[到達目標(斉藤7)]	
	[授業概要(斉藤8)] 症例カンファレンス3	症例より病証の把握を理解する。
	[到達目標(斉藤8)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻	
テキスト(配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献	「HARI なび」	
評 価 方 法	課題に対するレポートおよびプレゼンテーションより評価する。	
そ の 他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	附属鍼灸センター特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 石崎直人 ほか					
テ ー マ	鍼灸診療におけるスキルの向上					
授 業 の 概 要	附属鍼灸センターにおいては、実地臨床実習を通して、診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。来院する患者を診察(東西両医学の観点から)し、治療方針を組み立て、治療を実施し、治療効果を評価する。一連の臨床の過程をより高度に実習する。					
視 点 (ねらい)	実地臨床実習を通して、東西両医学の視点から診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
別途指示	[授業概要]別途指示する。					
	[到達目標]別途指示する。					
テキスト (配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法		実習における鍼灸診療の実際および実技試験より評価する。				
そ の 他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 苗村健治、糸井啓純、糸井 恵、納谷佳男、樋口敏宏、山田 潤、 大藪秀昭、木村篤史、小野公裕、川人浩之、小藤和孝					
テ ー マ	附属病院各診療科の診療の実際と業務について					
授 業 の 概 要	附属病院においては、開設されている診療科をローテーションし、医療 スタッフの一員として参加し、医療現場における業務役割と医療従事者 との連携について実習する。加えて、診療各科の特色について学習する。					
視 点 (ねらい)	附属病院で開設されている診療科の業務とその役割を担う医療従事者に ついて理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
別途指示	[授業概要]別途指示する。					
	[到達目標]別途指示する。					
テキスト (配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	病院実習における実習および実技試験により評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	臨床鍼灸研究技法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 石崎直人、川喜田健司、北小路博司、井上基浩、福田文彦、 伊藤和憲、田口玲奈、谷口 授、鶴 浩幸、廣 正基					
テ ー マ	臨床研究の基本					
授 業 の 概 要	<p>臨床研究の基本的事項について学習する。臨床研究には、様々な臨床研究があり、それぞれの研究方法論について学習する。特に鍼灸臨床にとって、有用な臨床研究法について学習する。</p> <p>(石崎直人/4回) 症例報告のしかたについて 健康関連の QOL について 呼吸器症状の評価について 基本的な医療推計学について</p> <p>(川喜田健司/1回) 疼痛の評価について</p> <p>(井上基浩/2回) 腰・下肢症状の評価について 膝の症状の評価について</p> <p>(谷口博志/1回) 自律神経機能の評価について</p> <p>(北小路博司/1回) 泌尿器症状の評価について</p> <p>(福田文彦/1回) 緩和ケア領域における症状の評価について</p> <p>(伊藤和憲/2回) 筋・筋膜疼痛症候群の評価について 消化器症状の評価について</p> <p>(田口玲奈・谷口 授/1回) 月経に伴う症状および更年期障害の評価について</p> <p>(鶴 浩幸/1回) 目・耳・鼻および顔面の症状に関する評価について</p> <p>(廣 正基/1回) 循環器疾患の評価について</p>					
視 点 (ねらい)	臨床研究に関する研究法の基本について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(石崎1)]症例報告の意義、どのような症例を取り上げるのか、症例のまとめ方、スライドの作り方などについて学習する。					
	[到達目標(石崎1)]					
	[授業概要(川喜田)]臨床研究でよく用いられる疼痛の評価方法について解説する			痛みを指標とした鍼の臨床研究の論文を		

	とともに、最近の基礎研究における知見も併せて紹介する。	事前に読んでおくことが望ましい。
	[到達目標(川喜田)]臨床試験における適切な疼痛評価の方法を理解する。	
	[授業概要(石崎2)]SF36やEuroQo1など包括的健康関連QOLの基本的なコンセプトと鍼灸臨床における活用について学習する。	
	[到達目標(石崎2)]包括的健康関連QOLのコンセプトを理解し鍼灸臨床に活用する知識を身につける。	
	[授業概要(井上1)]腰・下肢症状の評価・研究方法	腰・下肢症状に対する鍼灸臨床研究の論文を読む。
	[到達目標(井上1)]評価方法、研究方法について理解する。	
	[授業概要(井上2)]膝の症状の評価について	
	[到達目標(井上2)]	
	[授業概要(谷口)]自律神経機能の評価について	
	[到達目標(谷口)]	
	[授業概要(北小路)]泌尿・生殖器系疾患の内、過活動膀胱・前立腺疾患（肥大症と炎症）およびEDの評価法についてそのスコアと意義について述べよ。	特になし。
	[到達目標(北小路)] 鍼灸臨床における過活動膀胱・前立腺疾患（肥大症と炎症）およびEDの評価票の運用方法について述べよ。	
	[授業概要(福田)]緩和ケア領域における症状の評価について	
	[到達目標(福田)]	
	[授業概要(伊藤)]筋・筋膜疼痛症候群の評価について	
	[到達目標(伊藤)]	
	[授業概要(田口・谷口)]月経に関連した症状と更年期障害の病態生理および鍼灸治療に応用可能な評価方法について事前調査し、議論する。	
	[到達目標(田口・谷口)]月経に関連した症状と更年期障害の病態生理について理解する。また、鍼灸治療に応用可能な評価方法を調査でき、理解する。	
	[授業概要(石崎3)]呼吸機能検査等の一般的な評価について実習を行いながら学習する。	呼吸器に関する一般的な書籍を参照すること。
	[到達目標(石崎3)]呼吸機能検査が理解できる。	

	<p>[授業概要(鶴)]目(眼精疲労など)・耳(耳鳴・眩暈など)・鼻(アレルギー性鼻炎など)・顔面の症状(顔面神経麻痺など)に関する評価について学習する。</p>	<p>事前に授業内容を確認し、図書館などを利用してわからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。</p>
	<p>[到達目標(鶴)]目、耳、鼻、または顔面の症状に関する主要な評価について理解する。</p>	
	<p>[授業概要(伊藤)]主に上部・下部消化器症状に対する評価票について担当院生が調べて発表し、解説する。</p>	<p>発表担当院生は、発表内容を調べる前に事前に指示を受ける事。 わからないことなどがあれば、その都度、相談にくる事。 授業の1週間前までにレジユメを作成し、持参する事。</p>
	<p>[到達目標(伊藤)]鍼灸臨床においても使える上部・下部消化器症状に対する評価票について理解する。</p>	
	<p>[授業概要(石崎4)]基本的なデータ集計について学ぶ。</p>	<p>将来自分が行う研究について、どのようなデータを扱うかを事前に確認しておく。可能であればPCを持参する。</p>
	<p>[到達目標(石崎4)]平均値、標準偏差、変動係数などの基本統計量について理解する。データ種類別の集計方法を学ぶ。</p>	
	<p>[授業概要(廣)]循環器疾患の評価について鍼灸臨床で鍼灸師が行える評価方法について教授する。</p>	
	<p>[到達目標(廣)]循環器疾患の評価方法について鍼灸師が行えるものについて調査し報告することができる。</p>	
<p>テキスト(配付資料)</p>		
<p>参 考 文 献</p>		
<p>評 価 方 法</p>	<p>課題に対するレポートおよびプレゼンテーションより評価する。</p>	
<p>その他(アドバイス等)</p>		

授 業 科 目 名	内科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	内科系疾患(老年病含む)の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	内科系疾患(老年病含む)の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 (ね ら い)	内科系疾患(老年病含む)の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	整形外科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	運動・神経機能系（整形外科系）の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	運動・神経機能系（整形外科系）として、主要な運動器疾患（関節部の疾患、脊椎部の疾患など）と末梢神経障害（絞扼神経障害、外傷など）の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 （ ね ら い ）	運動・神経機能系（整形外科系）の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テキスト（配付資料）	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	外科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	北小路博司、伊藤和憲、井上基浩					
テ ー マ	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 (ね ら い)	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	江川雅人					
テ ー マ	健康・ウェルネス分野における鍼灸臨床の意義とその有用性について					
授 業 の 概 要	<p>本科目では、スポーツ鍼灸学・健康鍼灸学・加齢鍼灸学より構成される。スポーツ鍼灸学ではスポーツ外傷の応急処置法、スポーツ障害の代表的な疾患の成因と臨床について学習し、スポーツ鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。健康鍼灸学では、健康維持・増進、美容鍼灸、産業鍼灸など健康・ウェルネスなどの臨床について学習し、健康鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。加齢鍼灸学では、アンチエイジング、高齢者の自立支援、老年疾患の特徴と予防・治療法などについて学習し、加齢鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1) ウェルネスの意義と伝統医療との関連性の理解 2) スポーツ鍼灸学における専門的な臨床知識の理解 3) 健康鍼灸学における専門的な臨床知識の理解 4) 加齢鍼灸学における専門的な臨床知識の理解 					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	内科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	演習	授業年次	2年通年
授 業 担 当 者	石崎直人					
テ ー マ	内科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	本科目は特論で行った科目を踏まえ、内科系疾患の主要疾患・症候をとりあげ、これら疾患の病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。					
視 点 (ね ら い)	内科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	整形外科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	運動・神経系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	<p>本科目は特論で行った科目を踏まえ、運動・神経機能系（整形外科系）として、主要な運動器疾患（関節部の疾患、脊椎部の疾患など）と末梢神経障害（絞扼神経障害、外傷など）をとりあげ、これら疾患病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。</p>					
視 点 （ ね ら い ）	<p>運動・神経系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。</p>					
テキスト（配付資料）						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	外科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、					
テ ー マ	外科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	<p>本科目は特論で行った科目を踏まえ、外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)等における主要疾患や主要症状を取上げ、これら疾患病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。</p>					
視 点 (ね ら い)	外科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療に関する知識。技術の修得					
授 業 の 概 要	本科目は特論で行った科目を踏まえ、スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療について、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。					
視 点 (ねらい)	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等の分野における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療に関する専門的な診療能力を修得					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院内科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1、2 年通年
授 業 担 当 者	石崎直人					
テ ー マ	附属病院の内科系外来や病棟での臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の内科系外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。内科系に特化した実習を行う。					
視 点 (ね ら い)	附属病院の内科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院整形外科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	附属病院の整形外科系外来や病棟での臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の整形外科外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。整形外科系に特化した実習を行う。					
視 点 (ね ら い)	附属病院の整形外科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院外科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	和辻 直、北小路博司、伊藤和憲					
テ ー マ	附属病院の外科系外来や病棟における臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の外科系外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。外科系に特化した実習を行う。					
視 点 (ね ら い)	附属病院の外科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1、2 年通年
授 業 担 当 者	江川雅人					
テ ー マ	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等のそれぞれの臨床現場で実習					
授 業 の 概 要	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療法について、それぞれの臨床現場で実習を行う。スポーツ鍼灸は、主としてスポーツ専門外来およびスポーツ関連施設で、健康鍼灸及び加齢鍼灸は主として附属鍼灸センター及び京都駅前鍼灸センターで行い、必要に応じて外部施設においても実習を行う。					
視 点 (ね ら い)	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等のそれぞれの臨床現場での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培う。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究					
単 位 数 等	単位数	8 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、石崎直人、北小路博司、伊藤和憲、井上基浩、江川雅人					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	<p>「特別研究」は専門領域に関する臨床研究である。特別研究を行うにあたって、研究指導教員との面談の上、研究課題を決定し、研究を進める研究指導教員の特別研究課題は、下記のとおりである。</p> <p>(和辻 直) 緩和医療における鍼灸治療の位置づけに関する研究 (石崎直人) 代謝疾患及び症状に対する鍼灸臨床に関する研究 (北小路博司) 泌尿器科系疾患及び症状に対する鍼灸臨床に関する研究 耳鼻・眼科系の感覚器領域の症状に対する鍼灸臨床に関する研究 (伊藤和憲) 中枢感作症候群（繊維筋痛症・筋膜疼痛・機能的胃腸症など）に対する鍼灸臨床に関する研究 (井上基浩) 運動器系疾患と症状に対する鍼灸臨床に関わる研究 (江川雅人) 高齢者疾患（パーキンソン病や COPD など）に対する鍼灸臨床の実践</p>					
視 点 （ ね ら い ）	特別研究の研究課題に関する論文の作成とプレゼンテーションのためのスライド作成					
テキスト（配付資料）	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						